

テーマ：地域医療貢献に繋がる診療情報提供書代行

部署：本院 医療秘書課

発表者：小西 紗奈

【はじめに】

当院は『地域医療支援病院』として、病状が安定した患者の連携医療機関への逆紹介を推進している。専門的な検査や診察、入院が必要な治療は当院で、慢性の継続診療などはかかりつけ医への逆紹介を行うことにより、機能を分担し適切な診療を提供することが出来る。患者の流れがより円滑になり、当院においては外来患者の待ち時間の短縮や、勤務医の外来負担の軽減などの医師の働き方改革に資すると期待されている。今回、整形外科と糖尿病・内分泌代謝内科で診療情報提供書代行作成の取り組み、対象患者抽出から速やかな代行までのフロー策定を行ったので報告する。

【方法・課題・目標】

- ①プロジェクトチーム発足 ②医師と協議 ③現状把握 ④対象患者リストアップ ⑤患者への周知 ⑥運用開始

【実施（活動・対策）内容】

- ・医師との協議： 喫緊の対策が迫られた整形外科と糖尿病・内分泌代謝内科について
病院長、医師を交えてのミーティングを実施。
- ・現状把握：「逆紹介件数推移」「診療情報提供書の代行件数推移」
「対象となり得る（低単価）患者把握」
- ・対象患者リストアップ：（整形外科）医療秘書課スタッフが低単価患者をリストアップ。
あくまでも事務的視点である為、受診日の患者一覧コメントにて
医師へのメッセージとして入力。
診療当日に逆紹介可能かどうかの判断の目安として頂く。
(糖尿病・内分泌代謝内科) 医師がリストアップ。
- ・患者への周知：（整形外科）A外来受付到着時に、逆紹介推進用紙を配布。
(糖尿病・内分泌代謝内科) 診察時に秘書が逆紹介推進用紙を配布。
- ・運用開始：主治医より逆紹介について説明。かかりつけ医がない患者に対しては、
地域連携課に逆紹介先選定の依頼フロー策定し運用。
決定した紹介先に対し、診療情報提供書を代行作成し医師承認後に発行。
代行作成と外来診療枠の整備によって医師の負担軽減を図った。



【結果】

- ・パンフレット配布や地域連携ラウンジ等でアピールでき、連携医療機関への逆紹介件数がUPした。（前年比174.8%）
- ・医師の負担軽減に繋がる診療情報提供書代行作成フローが策定された。（フローによる代行件数 2023.4～7月：126件）

【考察】

- ・今回の取り組みによって、逆紹介推進のしくみづくりを確立できた。
- ・他部署との連携を強化し、患者にあらかじめ周知することによってスムーズな逆紹介を遂行できたと考えられる。

【今後】

- ・特に整形外科においては、外来診療が午後枠にずれ込む事により、手術開始時間の調整、術後の病棟受け入れにも影響が出る為、看護師負担の軽減の一助となるよう医師事務作業補助者として出来る事を重々と進めていきたい。
- ・今後も取り組みを継続していくことで、医師の事務負担軽減や、地域支援病院としての地域医療貢献に繋げていきたい。